

本郷中学校 令和二年度

第二回入試 国語解説

SNS への転載や出力したものを  
オークションで転売することは  
おやめください。

令和二年十月三日

作成 本郷学園生徒会中央委員会

【1】① ふる

② 穀倉

③ 鉄則

④ 基幹

⑤ 頂

【2】問一 ア

問二 ハ

問三 ウ

問四 エ

問五 イ

問六 ア

問七 ウ

問八 イ、オ

問九 (人々の心を揺さぶる詩とは、)歌から自由になり、自分の言葉は自分に返ってくることの恥ずかしさを伴いながら本気の自分を表現した(ものである。)

【3】問一 イ

問二 エ

問三 ア

問四 自分たちがボウリング場の経営者である「彼」に投球を勧めるのは本来筋違いだが閉店前の最後の一投になるのだから「彼」自身が投げるべきだ。

問五 イ

問六 ウ

問七 ウ、エ

## 〈解説〉

【1】①「奮う」は訓読みで「ふるう」と読みます。他には音読みで「フン」と読みます。

②「こくそう」は、漢字で書くと「穀倉」と書きます。「穀」の字の「禾」を「木」にしないように注意しましょう。

③「てつそく」は、漢字で書くと「鉄則」と書きます。「則」にサンズイをつけないように注意しましょう。

④「きかん」は、漢字で書くと「基幹」と書きます。「幹」の左側を「車」にしないよう注意しましょう。

⑤「いただき」は、漢字で書くと「頂」と書きます。

【2】問一 文脈から正解は「ア」になります。「涼しい顔」の意味は

自分が関係しているのにもかかわらず関係していないようにふるまうことです。

問二 「なぜ〜」というのは文の終わりが「〜か」と、ほぼ確定している修飾語である。同じように、文の終わりが確定するような修飾語は「おそらく」なので答えはハになります。

問三 無用とは漢字でわかるように用いないということである、なので必要ないという意味の「不必要」のウが答えです。

問四 ――線1の問題では、「歌が下手だから」とは違う理由を答えます。「なぜ人は歌うのが恥ずかしいのか。」から始まる形式段落③に注目すると、荒川良治さんの「その口のく過激である」という言葉をふまえて筆者は「私たち

はなるべく「いつもの人」でありたい。そうすることで無用に目立たないようにしている。しかし歌うとはそうした「いつも」をなぐり捨てることなのです。」と言っています。つまり、歌うということが非日常だから恥ずかしいということです。なので、歌う事が「いつも」ではないことを含む選択肢を選ぶとアとエに縛られます。アの中の「自分が苦勞して築き上げてきた社会的地位や名誉に傷ついてしまうことになってしまうから。」は文章中に書かれていないので、答えはエです。

#### 問五

——線2を含む文章の前を見ると、前に「だからみんな安心してそれを『歌う』ことができた。」と書いてあり、「それ」とは、詩を指していています。なぜ安心して歌えるかを探すと「詩はかつて歌とほとんど同義でした。それは『みんなのもの』だった。共同体や制度が詩を詩にしていたからです。」とあります。つまり、形式や縛りが共通の集団の中では自分の気持ちを共感してもらえろということを行っています。よって答えはイです。

#### 問六

まず、アリバイ工作というのは犯人が現場にいなかったことを証明しようとすることです。——線3の「それではアリバイ工作のように聞こえるかもしれない。」の「それ」というのは、「こんなこと言ってもいいのだろうか」という疑問を直接的に語ることを指しています。「こんなことを言った事実を隠そうとすることが、まるでアリバイ工作のようだと言っています。よって答えはアです。

## 問七

「きのこ雲」と「追っ払う」の関係をみるとア以外まず選択肢の前半で書かれている「追っ払う」と「きのこ雲」の組み合わせについて考えると、ア以外は本文の内容に合っています。よって後半部分の内容で選びます。詩中の「でも」「みるか」などのぼかしの表現について筆者は「最後の一步で、ちょっとだけ「待て」という声が聞こえる」と言っているため、直接的な表現へのためらいを表しているとは筆者が捉えていると判断して、答えはウです。

## 問八

問八は適切ではないものを選ぶ問題です。本文より、谷村光太郎の詩は「詩と歌は同じだが少し違う」という筆者の意見の肯定的要素として出てきています。なので、イは適切ではありません。オでは文章の構成について説明されています。本文には、筆者の意見を説明するために、具体例が2つ入っているので（高村幸太郎の「牛」歌と詩は違う、山之口獏「牛とまじない」歌と詩の表現の違い）、前半部分の「具体例をいくつも挙げて」は正しいですが、後半部分の「共通している要素を取り出して」はいたいためオは適切ではありません。よってイとオが答えになります。

## 問九

まず二重線の部分には「恥ずかしさを伴いながら語られた言葉は強い」という筆者の主張が書かれています。ここで述べられている恥ずかしさとは、自分の言葉が自分に戻ってくる恥ずかしさです。しかし、問題で求められている詩と歌の関係が見当たりません。筆者の意見と同じよ

うなことが書かれているところを探すと、三ページに「しかし、詩を書くことに意味があるとしたら、この「恥ずかしさ」を背負っていることが大事なのではないかと私は思います。」と書いてあります。この後の数段落を見ると、歌は共同体と結びついたものであり、詩はその対極にあるもので詩を使い自らを開放することが重要だ、という筆者の主張が書かれていることが分かります。これらをまとめると「詩においては、恥ずかしさを伴いながら歌から脱した状態で自らを開放すべきだ。」となります。

#### 模範解答

「歌から自由になり」「自分の言った言葉が自分に返ってくる恥ずかしさを伴いながら」「自分を表現する」

### 【3】問二

ハイオクさんは、「彼」の回想シーンに書いてあるので、回想シーンに注目します。ハイオクさんは、「親しみやすい雰囲気を持った人」であり、けがでプロを引退する不運に見舞われたけれども最後まで自分のスタンスを変えなかった人物であることが読み取れるので、答えは **イ** です。

#### 問二

25 ページ9行目「ハイオクさんの教え方は素晴らしかった」にも関わらず、「そうした注意事項をことごとく無視するものだった」ことが不思議だと言っています。（ここでの「注意事項」というのは、ハイオクさんがおしえていたボウリングのレッスンやアドバイスのことです。）

つまり、基本がしっかりとできていてプロボウラーになった技術はあったのに、そのプレイは模範的とはいえないものであったことが不思議だったということです。よって答えは**エ**です。

### 問三

彼は「ハイオクさん」や「妻」のこと思い出していましたが、青年の声で我に戻ります。そして一フレームで自分が長く続けたボウリング場が終わってしまうことに對して気持ちの整理がつかず張りつめています。ここで選択肢を確認します。イは、まず自分に対しての気持ちなので違います（「なんとなくしている」の部分）。ウは、本文に書いていないことが書いてあります（「少しでも思い至り」の部分）。エでも、本文に書いていないことが書いてあります（「自分が人々ら気づき」の部分）。よって答えは**ア**です。

### 問四

「最後はご自身で投げ…お辞めになるのな…ご自身で締めてくださらなきゃ」というセリフは、閉店までの最後の一投なので、この経営者である「彼」が投げるのがふさわしいという男女のペアの考えを表しています。しかし、常連ではなくトイレを借りに來ただけの自分たちが提案するのは差し出がましいと感じているので「あたしたちが進めるのも変ですけど」と付け足しています。これらのことをまとめると、「ボウリング場の経営者である「彼」に投球を提案するのは差し出がましいが、最後の投球になるので「彼」が投げるべきであると考えて

いる。」となります。

## 問五

まず、戦慄が走るとは驚きや恐怖などで震えおののくことを言います。――線5の段落を見ると、彼はハイオクさんのピンをたおす音を再現するチャンスは今しかないのかもしれないと考えで投げています。そして補聴器を外して最終フレームに集中していましたが、フォームが、乱れたームが乱れた投球後「ピンの音がいつせいに鳴りはじめ、」「それが幻聴なのか現実の音なのか区別できぬまま、」とあることから、彼はずっと耳に残っていたハイオクさんのピンを倒す音を聞いた気がして身震いをしています。ここで選択肢を確認します。アは、ハイオクさんのようなぎこちないフォームではなく「青年そっくりに」と本文に書いているので違います。また、戦慄が走った理由も違います。ウでは、彼は補聴器を外すと音が聞こえないことがわかりながら、外しているの違います。また戦慄が走った意味も違います。最後のエですが、彼がハイオクさんと出会ったのは大学生のため「幼いころからの」という表現は適切ではありません。なので、答えはイです。

## 問六

投げ方など自己の流儀をつらぬく「ハイオクさん」の話をよく妻に話をしていたことや今でも話せること、「ハイオクさん」と同じように自分の立ち位置を変えなかったことから、彼は「ハイオクさん」に共感していることが読み取れます。また彼は、ボウリング場の閉店する夜

にハイオクさんのような音が出せたことから、自分の生き方にとても満足していることがわかります。なので答えはウです。

#### 問七

アを見てみると、選択肢で挙げられている比喩表現は直喩なので違います。イの「　」については、問題文14ページ4行目の青年のセリフと16ページ3行目の女性のセリフに「　」がついていないことから明確な区別がないことが分かります。また、本文は常に彼の視点から描かれているためオは違います。よって答えはウとエです。